

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	山田洋子	所属	立命館大学衣笠総合研究機構
研究集会等名称	日本心理学会ナラティブと質的研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 28名 (うち認定心理士 1名)</p> <p>非会員 99名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p style="text-align: center;">集会の実施内容と成果</p> <p>1. 集会</p> <p>(1) 第3回研究会「ビジネス現場のナラティブ・ワークショップ」: 2013年6月2日, 立命館大学(衣笠キャンパス)にて, 小林恵子氏(富士ゼロックス総合教育研究所)を講師・ラーニングデザイナーとして, 参加型のワークショップを開催した。</p> <p>(2) 第4回研究会「病いの語りと当事者性」: 2013年10月27日, 大阪大学吹田キャンパスにて, 「当事者性を考える研究者の会」との共催で開催した。稲原美苗氏(大阪大学), 菅波澄治氏・田辺裕美氏(大阪大学), 嶋田久美氏(京都大学)からの話題提供があり, それぞれ活発な議論を行った。</p> <p>(3) 第5回研究会「当事者- 非当事者間の対話に基づく実存の構築」: 2013年11月30日, 立命館大学(衣笠キャンパス)にて「生存学若手プロジェクト(生存のナラティブと質的研究会)」との共催で開催した。木戸彩恵氏(立命館大学)と福田茉莉氏(立命館大学)からの話題提供と議論を行った。</p> <p>(4) 第6回研究会「いじめをめぐる代弁をかさねる- 教育関係者の代弁といじめ自死児の保護者の代弁-」: 2013年12月8日, 京都大学にて, 望月彰氏(愛知県立大学)・阪根健二氏(鳴門教育大学)・竹内和雄氏(兵庫県立大学)を登壇者, 戸田有一氏(大阪教育大学)が企画者・聞き手として研究会を行った。</p> <p>2. 特別企画・連携企画による集会等</p> <p>以下の研究集会を主催・共催で企画・実施し, 有意義な議論を行った。</p> <p>(1) 「ナラティブとディルタイ」(2013年7月6日(土), 大阪教育大学, 主催: 日本ディルタイ協会), (2) 「『質的心理学ハンドブック』シンポジウム」(2013年6月1日, 立命館大学, 主催: 日本質的心理学会), (3) 「超高齢社会の新しいエイジング国際研究- 星野和実先生(ペンシルベニア州立大学)を招いて」(2014年1月20日, 立命館大学, 主催: 生存のナラティブと質的研究会), (4) 日本発達心理学会第25回大会ラウンドテーブル「『慢性の病い』の新しい医療実践と教育を考える」(2014年3月22日, 京都大学, 企画: ナラティブと質的研究会)</p> <p>3. 読書会の開催</p> <p>2013年7月7日に『APA心理学方法論ハンドブック』, 2014年1月19日に『ピアジェとヌーシャテル』の洋文献読書会を開催した。</p> <p style="text-align: center;">将来計画</p> <p>現在, 研究会の会員数は120名を超え, 心理学のみならず, 医学, 看護学, 教育学, 哲学等, 様々なバックグラウンドを持ったメンバーがいる。今後もそのような多様性を活かしつつ, 領域横断的な研究会を企画し, 多声的な対話ができる場所を生成していく予定である。また, 活動の詳細については, 代表者の山田洋子のウェブサイト(http://www.ritsumei.ac.jp/~yyr12085/yyamada/ynarrative.htm) および, 研究会専用のメーリングリストでも引き続き積極的に情報発信をしていく。</p>		

2014年3月27日

日本心理学会研究会

年度会計報告書

研究会名称 ナラティブと質的研究会

研究会番号 研13033

助成金額 ¥20,000

年月日	項目	金額
2013年6月2日	講師招聘（交通費・宿泊費）	¥37,000
2013年6月2日	事務用品（文具）	¥210
2013年7月7日	雑費（お水, 紙食器, 文具等）	¥980
2013年11月30日	雑費（お水, 紙食器, 文具等）	¥580
2013年12月8日	雑費（お水, 紙食器, 文具等）	¥1,100
2014年3月27日	切手代	¥130
支出合計		<u>¥40,000</u>